

第1部 【旧日本軍の戦争神経症と見過ごされてきたトラウマ】

近現代史研究者 中村江里

近現代史を研究しているが戦争とトラウマと密接に関係している。

トラウマとは、圧倒的な恐怖体験の後、継続して心身に何らかの反応を及ぼすこと。PTSDは代表的なトラウマ反応。症状は、再体験、知覚麻痺、否定的認知気分。兵器の進化で集団的にトラウマに。ベトナム戦争社会不適應で問題になった。1980年に診断名成立。1995年の阪神大震災で広く知られる。日本兵の戦時神経症に本格的に取り組んだのは日中戦争以降。忘れられてきたのだが、阪神大震災で知れ渡る。自衛隊を取り巻く環境の変化で、2015年、メディアで紹介されて注目されるようになってきた。

戦時下で精神疾患の人の病床日誌が焼却命令された。戦争が拡大していく中で、精神疾患にかかる人が増えた。近代の戦争の恐怖、日本軍の中での私的制裁、暴力などが原因。生存者罪悪感。戦争神経症の存在を隠蔽しようとしていた。内地に戻ることを恥じて自殺したり、戦地に取り残されたり、殺害されたこともあった。患者本人も偏見を内面化。

戦争、軍隊に対する忌避感、タブー、精神病に対する差別などから忘却されてきた。内容が重すぎる、性に関する、加害者性があるトラウマは語りにくく見えにくい。

戦時の加害を可能にするものは、権威者の要求、集団免責、敵を非人間化する（人種差別、性差別）事。自衛隊のストレスに私たちは向き合えるのか。

第2部 【沖縄戦による晩発性PTSDと沖縄社会全体に影響する戦争トラウマ】

精神科医 蟻塚亮二

沖縄で診察中、夜中に何度も目が覚める症状の人を診て沖縄戦の晩発性PTSDに気付く。60～70年経って少年の頃の戦争の辛い記憶が、フラッシュバックする。アメリカでもある。圧倒的なトラウマ体験をすると、脳に残る。意識の下の方に保存されて、何十年経ってから喪失体験すると、過去の記憶の中で一番辛かったものが表に出てくる。脳の中の記憶は風化しない。戦争体験者、性暴力体験者は普段埋もれているが、過去の記憶なのだが今の自分に侵入してくる、時系列が混乱する。過去形になっていない、それがPTSD、トラウマ。戦闘機を思い出すから掃除機が使えない、花火の音が戦場を思い出させる。ある場所に行くと思出す、ある人に会うと思出ししてしまう。感情をマヒさせる、過覚醒症状、特有の不眠、身を引く、諦め。

ホロコースト体験者によると睡眠障害が最も多い。どれか一つでも症状が出るとPTSD。沖縄戦では住民が捨て石に。4人に1人死亡。半数が死亡した村も。

子供に大きい影響があった。少年の凶悪犯、自殺率が戦後18年経って最大。

沖縄で精神病が多発した。統合失調症は本土の3.6倍。パニック発作、晩発性PTSD、命日反応鬱、世代を超えて戦争の傷が伝達する、認知症に戦争の記憶がフラッシュバック、トラウマ的な記憶は認知症になると突出してくる。トラウマで幻聴、幻覚がある（治る）。トラウマ刺激は起きろという刺激になる。トラウマは次のトラウマを拾って倍のトラウマになる。雪だるま式に膨れる。福島での体験も気をつける必要あり。メンタルストレスが体に出る。

米でのベトナム帰還兵も、老いと共に戦時中の辛い記憶が出てきたり、沖縄戦と同じ。人生のクリティカルポイントで出てくる。

《どうトラウマを乗り越えるか》

人にSOSを出す、泣いても良い。語る、仕事、住居、仲間、お金がいる。音楽、芸能、地域のカルチャー、共通する文化が大事。今を大切に生きる感覚を増やす。過去に心をとられることから、今を生きる。今を肯定する感覚を増やす。過去の記憶を過去形に戻す。

第3部 【米軍兵士のPTSD】

文化人類学者 サム・コールマン

米では一般の人より軍人が戦争体験からPTSDに苦しむ人がとても多い。退役軍人に自殺率がとても高い。中でも年齢が上の人、女性に多い。

米でPTSDの発生率が高くなっている。1980年まではPTSDの診断がなかった。政府が認めてこなかった。一般人のPTSDに加えて軍の体験のPTSDは、発作的な怒り、暴力的な行為に出る、強い疎外感、コミュニケーションできなくなる。人や組織に対する信頼感がなくなる。原因は軍の不誠実性。リクルーターの説明内容が現実と違う、戦前の日本政府のプロパガンダと似ている。戦争する理由など、嘘、不誠実。米軍そのものがPTSDを発症させていると精神科医も指摘。兵士は裏切られたという感覚。モラル・インジャリー（心の傷）と言われる。上司の嘘、自己嫌悪へ。軍のPTSDは裏切られたという感覚でレイプと似ている。周りの反応によって2次レイプにも。上官にレイプされるケース、セクハラも多い。軍で同じひどい経験をしていてもPTSDにならなかったのは、エリートで賞賛を受け、支援を受けた政治家。

今のアメリカは経済は危機的で不安定な人が沢山いる。同僚のいない個人的な仕事が多く、個人的な余暇の過ごし方をする孤立した人が増えた。ここ2年で平均寿命も短くなった。原因は失望感（麻薬、自殺、アルコールの増加）。出生率も過去最低。富の両極化。中間層の撃滅。貧富の差が少ないと犯罪が少ないが、貧富の差が大きいと犯罪も多い。アメリカは後者。帰還兵が戻ってこられる健全な社会を作る必要がある。

第4部 【現在の危機】

安保法制を通したというのはアメリカと一緒に戦争をするかもしれないということ。国家を守るとは自衛隊の組織として動くときは、国家体制を守ること、米軍と自衛隊の基地を守りながら相手を倒すことで、自衛隊の災害派遣とは真逆のこと。米軍と国民の生命と財産を守るところか、国民の生命が危機に。自衛隊のPTSDの治療のコストは取っていない。戦場に医師の投入はできない（数も足りない、法律もない）。イラク派遣で箝口令が敷かれ、家族に本音も言えず自殺者が出た。箝口令はPTSDを重くする。経済的に貧しかった人たちの子供の頃の過酷体験のPTSDは重く、そのような人が軍に入った場合の症状は深刻。

気をつけないといけないのは、政府がしようとする、軍事化、民営化、グローバリゼーション。例えば、民営化するとサービスは落ち、利益は経営者の方に吸い取られてしまう。今の自衛隊の勧誘は、災害派遣だとか家族を守るとか言って、現実を伏せている。安保法制が通ってからは自衛隊の訓練が変わってきた。仲間が負傷したら仲間を見捨てるとか、より近い距離からの射撃訓練になった。PTSDも語られず、第2次世界大戦の総括ができていない。戦争は国体を護るとするのは過去の戦争を見てわかること。